

通信

NO. 152
2025年9月号

ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目
33番11-702号
092-982-5177

今月の作品

秋の野菜



いつも野菜を届けてくれる友人から白ナスやオクラなどを頂いた。早速、白ナスのステーキにして、とろりとしてナスをおいしくいただきました。

スタ
コラ

15秒
の威力
大隈 信夫

「昭和生まれの“テレビじいじ”」と、連れ合いに揶揄されている私は、最近、テレビのコマーシャルが、なんか、ちょこちょこと細切れで、いくつものCMが繰り返されるような気がしていた。

番組の途中に流されるCMは、1本が約15秒で、立て続けに何本もながれ、2分間に30秒が2本と15秒が4本、さらに番宣が4本と続く。これだ、自分が感じ

サンセット・サンライズ

2025年 ワーナー・ブラザース



監督：岸 善幸
出演：菅田将暉
井上真央
竹原ピストル
中村雅俊



映画大好きの山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

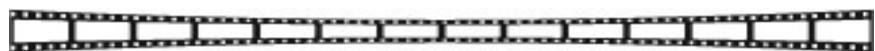
榆周平の同名小説を映画化した、社会性と娛樂性が溶け合う秀作。

都会の大企業勤めで釣りが趣味の晋作（菅田将暉）は、宮城県三陸のお手頃な物件へのお試し移住を実施。

家の大家で役場の空き家問題担当の百香（井上真央）や地元住民と交流を深めていく。

その中で、都会と過疎地、空き家問題、人間模様等が合間で様々な問題がクローズアップしていく。

地方移住でまさかの人生が待っていた！



ていたものは。

調べてみた。

民間放送が開始された当初は生コマーシャルが主流で、すべて1分から2分、その後の録音・録画CMは、60秒枠・30秒枠がスポットCMの販売単位として定着し、現在は、CMの販売単位は、民放連（日本民間放送連盟）では、標準時間目安を5秒・10秒・15秒・20秒・30秒・60秒と定めている、とあった。

では、気になっている“細切れ”的15秒はいつから始まったのかと調べてみると、1961年秋であり、その後、60年代後半からは、現在の15秒枠がスタンダードとなり、30秒、60秒は長尺とされていることも分かった。

へーそうだったのか、そんな60年近く前からの“細切れCM”が、なぜ、今、気になったんだろう。

CMのテンポについていけず、

煩わしく感じる年齢になっていることは間違いないが、“細切れ”で気が付いたことがある。

それは、最近の選挙で大きな影響があったとされる「切り抜き動画」だ。

CM枠の変遷は、「企業活動上のCMの効果」を検証しながらの変遷だと考えると、最近のSNSで拡散される「切り抜き動画」の威力が理解できる。

2010年に固定電話85.5%、スマホ9.7%の時期から、2023年には固定電話57.9%、スマホ90.6%と大きく変化した環境の中で、この細切れの「切り抜き動画」の効果がますます重要になるのだろう、と思う。

紙媒体とテレビ世代の「昭和生まれの“テレビじいじ”」にとっては、大変な時代になっていると、改めて感じる日々だ。

ビジネス総研

<https://www.b-souken.com>